

Now

Vol. 23

2023.1.1発行

特集：がんこ! こだわり!

●入会のご希望やお仕事のご依頼は、こちらにご連絡ください。

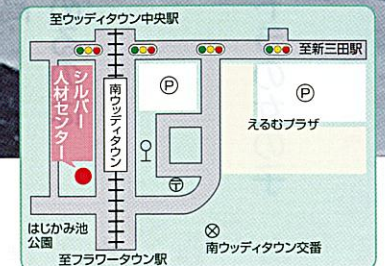
〒669-1323 三田市あかしあ台5丁目32番2号

公益社団法人
三田市シルバー人材センター

TEL : 079-564-7501 FAX : 079-553-1300

HP : <http://www.sandasc.org/>

e-mail : sandasilver631015@sandasc.org



公益社団法人 三田市シルバー人材センター

「がんこ」で行こう！ 「こだわり」を買こう！

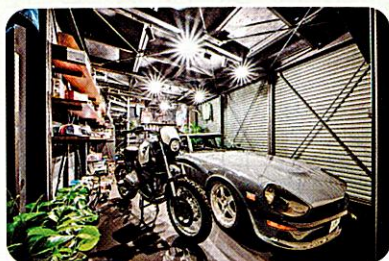
「がんこ」「こだわり」…どことなく似ている言葉のようでも、イメージは異なってくる言葉ですが、「がんこ」は、「がんこ親父」「がんこ一徹」…なんか眉間にしわを寄せて、への字口の無口な親父か、「巨人の星」の主人公の父を連想してしまわないでしょうか。持論を曲げず、融通の利かない性格、社交的でなく我が道を行くといったような、小難しい人柄といった人物像が浮かび上がってきます。



一方「こだわり」は、「こだわりの逸品」「店長こだわりのビストロ」と、どことなく上品でワンランク上の高級品、美味しい食材を扱う高級店を想像してしまいそうで、知的で博学、独自の美学を持っている人や、ブランド力が強く、普段手が出せそうにない高級品、憧れのお店といった感じでしょうか…



「がんこ」は、どちらかと言うと万人に受け入れられ難く、煙たがられるタイプで、「こだわり」は、憧れと共に、万人に受け入れられやすいタイプではないかと思えます。



日常的には「がんこ」「こだわり」を持たなくても困ることは少なく、逆に持たない方が、時間やお金を無駄にしないのかも知れませんが、最近では「がんこ」「こだわり」と言われる若い世代が、心なしか少なくなったと感じることがあり、あまり物事に執着しない傾向になっているように思えます。

そんな若者たちに、重要な仕事を任せたり、社会での活躍が期待できるのかと考えると、少々不安に思うところがあります。

そう考えると、「がんこ」や「こだわり」を少しでも持っている方が、プラスに働くことも多いのではないのでしょうか。

「がんこ」に一日のルーティーンを守っている人は、健康な毎日が過ごせる。

昔ながらの製法を「がんこ」に貫く人は、伝統や歴史を重んじる。

和服に「こだわる」人は「着付け」を教えることができる。

エコや節約に「こだわる」人は、不用品をリフォームやリユースで活用できる。

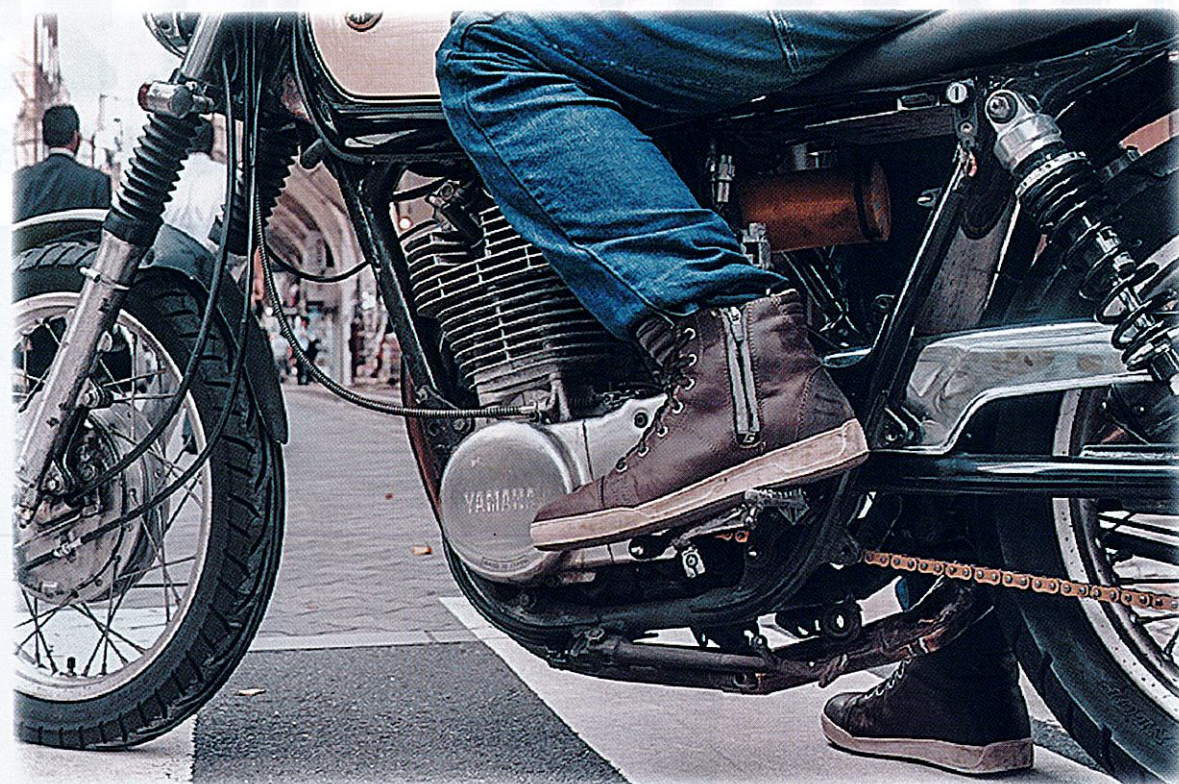


「趣味」「特技」「技術」「技能」も、言い換えれば「がんこ」「こだわり」の延長線上にあるもので、それらをフルに活用して活躍するシルバーの会員は、「がんこ」で「こだわり」のある人間の集まり、「個性の塊」と言っても過言でないかと思えます。

「がんこ」で「こだわり」を持った仕事をするすることで、発注者の皆さんに喜んでもらえることを生きがいに、地域で活躍することを目指せばと思います。

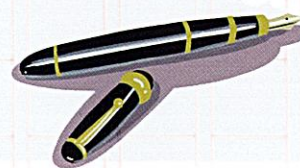
「がんこ」で行こう！ 「こだわり」を買こう！
そして、シルバーでその「がんこ」と「こだわり」を大いに発揮しよう！

オートマ…？ ハイブリッド…？



こだわりはクラッチと、 シフトチェンジ

子どものころ親父が使ってた万年筆
インクが無くなると補充して
書いても乾くまでに時間がかかるし
細字、中文字、太字
ペン皿には常に二本揃ってた
ボールペンでいいのにな
面倒くさい・・・そう思ってた
いま、同じように
万年筆を愛用している
我が家のDNAか
もう、手放せなくなっている



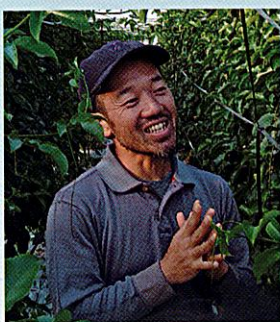
三田で南国果実

南国の果実として知られているパッションフルーツですが、三田市内で栽培されていると聞くと耳を疑われると思います。実は、2年前から栽培し出荷されている農家があるのです。井ノ草にある「あまくぼ農園」さんでは、ビニールハウスの中ですくすくとパッションフルーツが育てられ、取材に訪れた際は12月の出荷を待つ果実が、たわわに実っていました。

ご主人の久保也さんに、なぜ三田でパッションフルーツを栽培されることになったかとお伺いすると、自然豊かな奄美大島に自給自足を試みて移住されたところ、村で所有する農地を、職員として管理してもらえないかのお話があり、それではということ、島ではポピュラーなパッションフルーツの栽培をすることになったそうです。

久保さんは、大学時代から生物学を学んでおられたことや、島の農業指導員の熱心な指導を受けながら、自身でも工夫を重ねつつ、栽培ノウハウをみるみる習得されたそうです。

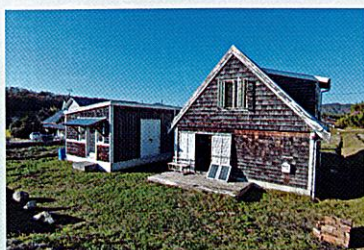
奄美大島の生活にも馴染んできたころ、家庭の



ご事情で三田に移住することになったのですが、農業は続けられるつもりで、周囲からの反対にも屈することなく、奄美大島と同じくパッションフルーツを、育てる決意をされたそうです。

思いもよらない挑戦で、よっぽどの野心家、冒険家かと思いきや、本人曰くは不安を一つ一つ取り除いて行っても、まだ大丈夫か？と思うほどの慎重派だそう。奄美大島への移住に関しても、あらゆる条件にこだわり続け5年間もの準備期間を費やされたそうです。

そんなこだわりの強い久保さんだからこそ、日々の経験を大事に積み重ね、厳しい有機JASの認証検査もクリアできたのだと思います。



シルバー人材センター

入会のご案内...

★入会資格：60歳以上、三田市在住、健康で働く意欲のある方

★入会説明会：毎月第2金曜日 13:30~

- ・説明会のご参加は、前日までのご予約が必要です。
- ・説明内容をご理解いただき、後日入会の判断をしていただきます。
- ・ご登録は、参加された説明会の翌月となります。

電話番号:079-564-7501



パッションフルーツは関東地方を中心に出荷され、2年間である程度軌道に乗ったこともあり、新たに手掛ける品種としてドラゴンフルーツを検討中だそうです。南国の果実からぶれない姿勢にも、強いこだわりを感じます。

シニア社員だけで 目指すオンライン

昔からよくあるひし形金網。数ある用途のうち、法面保護用フス網の製造として、西日本地区最大の供給力を誇る藤田鉄網商工株式会社は、市街地から離れた、下青野の谷合で操業されていますが、最近では、平均年齢70歳以上の社員が働く会社として、テレビや新聞、雑誌などにも紹介される注目の工場となっています。



実は、2003年の新聞に「シニアパワーでJ-1S取得」という記事が掲載されたことが発端で、製造業の経験のある高齢者が、求職に求められるようになったからだそうです。高齢者を雇用することは、体力的な衰えに不安を抱えるところはありませんが、製造品目をフス網に限定したことで、作業工程の手間を無くしたり、新たな技術習得も省けるなど、基本的に個々のペースで作業できるように工夫されました。また、当初は意図していなかったのですが、製造業経験者なので作業の慣れも早く、モノ作りの意識も高いことから、

若手社員の育成で苦勞していた問題が低減されたり、品目を限定したこと、共通の課題を社員同士で助け合え、それにより品質向上につながり、同業他社との競争が減少しただけでなく、逆にフス網の製造を委託されるようになるなど、結果的に効率よくシニアを伸ばすこととなりました。フス網は、災害防保のための公共事業に使われるため、年間を通して生産期間や受注量に波があるそうですが、図らずも高齢者の場合は、スケジュールをある程度自由に調整できることも、工場の負担を減らす要因となっています。



厳しいノルマやスケジュール管理もなく、社員の皆さんは、マイペースで楽しくお仕事をされているようで、休みの日にも工場に顔を出して、ちよつとした作業をしたりと、工場を自宅と同様に居心地のいい場所と感ぜられているようです。



マイペースで地域貢献...

継続的なお仕事、空いてる日を活用したお仕事、以前の経験や知識、技能を活用したお仕事など
シルバー人材センターでは、ご自身のライフスタイルに合わせたお仕事が可能です。



《主なお仕事》

- 植木剪定、駐輪場・市民センター管理業務
- お子様の一時預かり、広報誌配布業務
- 除草作業(機械、草引き)、家事支援
- 屋内外清掃作業、障子・襖張替...など



今回お話をお伺いした笑顔が素敵な藤田社長は、工場の業績を上げることにはもちろんのこと、作業環境や社員との信頼関係、地域社会への貢献等にも大変こだわっておられ、楽しく笑顔で仕事がしたいという思いが、工場を発展させたのだと思います。

ゆずれない我が家のこだわり!



お掃除は、
はたきでホコリを
落としてから!

色柄物と、白い物は、
一緒に洗いません!

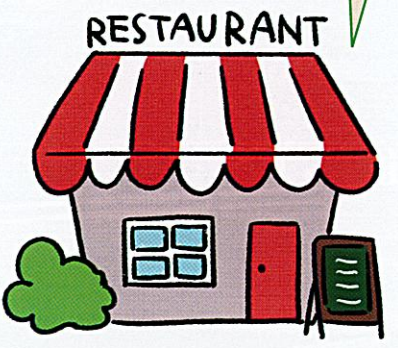


冷蔵庫に
ブロッコリーを
切らさない!



年中行事は、毎年
必ず実行する!

誕生日や、
お祝い事は、
いつものお店!

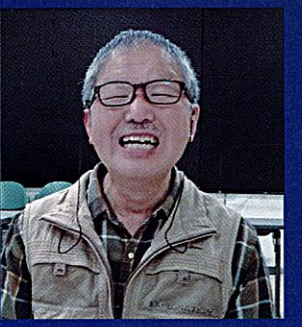


え? 私?
私は今年四歳になるキジトラの女の子

ああ でも家族からは
「がんこやわー」と言われることが
一つだけあるある
それはごはん
柔らかいものより固いものが大好き
カリカリのチキン味は最高
巷で人気の ペロペロ舐めるのは
全く興味わかないし

月明かりの下で思う

物静かで穏やかな趣の扇
進次郎さんは、学生紛争
真ただ中の大学時代に、
実家の文房具店を手伝いつ
つ、山岳部に在籍されてい
ました。登頂を目標とする



登山(ピークハンター)に少々疑問を感じることがあり、登山の目的を高山植物や、日の出、日の入りを狙った山岳写真撮影として楽しむ様になりました。ある秋の日、キノコだらけの山旅を経験し、その幻想的な情景に感動し、キノコへの興味が急増したそうです。

またその日は、登山道の真ん中に、マツタケのようなキノコを見つけ、下山してから地元の人にキノコの種類を尋ねたところ、「山登りして松茸も知らないのか」と言われたのをきっかけに、当時日本で入手する事の出来た、キノコ関連の本をすべて取り寄せ熟読し、キノコの情報収集に没頭されました。

後に、日本キノコ協会を発足させると、400人を超えるメンバーが集まり、キノコに関する事であれば、芸術だろうと音楽だろうと、グッズのコレクションなどつと、ジャンルにこだわることなく、県内のイベントでキノコ展を開催されたり、ロシアの菌学者と共に

同で、シベリアでのキノコ探検ツアーを実施したりして、「キノコ趣味」の世界を啓発して来られたそうです。

また今回、ご持参いただいた膨大な切手は、いずれもキノコにまつわるもので、図鑑に載っていない鮮やかな図柄もあれば、枠内にわずかしか入っておらず、目を凝らさないと分からないようなキノコが隠れているものも数多くあり、かなりのこだわりを感じました。



なぜそこまでキノコにのめりこんでしまったのか理由を聞くと、昼間に太陽の日差しを浴びてぐんぐん成長していく、美しい花を咲かせる植物が多いなか、日の当たらない土の中で菌糸を伸ばし、月明りの下で一齐に伸び上がりキノコを作り、人知れず胞子を飛ばして子孫を増やしていく、環境保全にも役立つところ。

そんなキノコが、健気で愛おしくて、今

では、扇さんにとって「人生の先生」になっているそうです。

日常的にも、大衆から脚光を浴びて注目度の高い有名選手よりも、地道に「ツツ」ツ努力を積み重ね、派手ではないけれど結果を残していく選手が好きだったり、大手有名メーカーよりも、職人気質で精巧な部品を「ツツ」ツ作り続けている、町工場に興味があったりと、本質的に、いわゆるマイナーとされるものに非常に興味が湧くそうです。

表舞台に立たなくても、それを必要とされている以上は、責務を全うし決して手を抜かなかつたり、ほとんどの人が関心の無いことでも、関心のある人たちからは、常に感謝されるように努力するといった人生の美学を、扇さんがキノコにかける愛情から、垣間見れた気がします。

他にも、ロシア文学や映画、ジャズ、歴史、廃墟などなどいろんな事に興味を持たれています。ですが、いずれもその裏側を深く探られており、キノコ同様に愛情を注がれているようです。

